

知的生産支援システム Wadaman

デモ17

宗森 純 寺口 正義 由井 蘭隆也* 首藤 勝
大阪大学 *鹿児島大学

1. はじめに

近年パーソナルコンピュータが広く普及し、ワードプロセッサソフトや表計算ソフトなどが多数使用されている。また、電子メールやワークフローソフトなど通信を使ったグループウェアも普及してきている。しかしこれらはいずれも電卓や帳票、郵便、書類などの代替物であって、知的生産を直接的に支援するためには距離のあるものであった。

日本では1960年代から知的生産の手法として梅棹忠夫のカードシステム[1]と発想法の一つである川喜田二郎のKJ法があり[2]、現在でも利用されている。本セッションでデモを行う知的生産支援システムWadamanは[3],[4]、梅棹忠夫のカードシステムをソフトウェア化したもので、複数の計算機上でKJ法を支援する発想支援グループウェア郡元[5]のデータベース部分も担っていて、知的生産支援をめざしている。

2. Wadaman

本システムの開発に使用したアプリケーションソフトはHyperCard2.3(AppleComputer)であり、Wadamanはその記述言語であるHyperTalkを用いて約7000行のプログラムで作成されている。

2.1 基本機能

Wadamanは仮想環境を提供することでユーザになじみやすくわかりやすい環境を作りだしていて、なるべく日常生活に近い感覚でカードを扱えるようになっている。

Wadamanでは仮想的な部屋(図1)の棚に仮想的なカードボックス(図2)が存在し、仮想的なカードが収納されている(図3)。紙の場合と同様にカードボックスにカードが並んで収納されているように表示されていて、ある位置に存在するカードをクリックすると、そのカードの見出し部分(カードの一番上の行に記述してある)が引き出され、内容が表示される(図3)。分類項目も作成でき、カードを入れ替えた

り複製したりすることができる。カードボックスの中のカードの見出し部分をパラバラとめくる感覚でみることができ、また、カードを一枚一枚、実際にめくっていく感じで視覚的に検索して内容を見ることもできる。このように紙のカードと同じように扱えるようにしている。

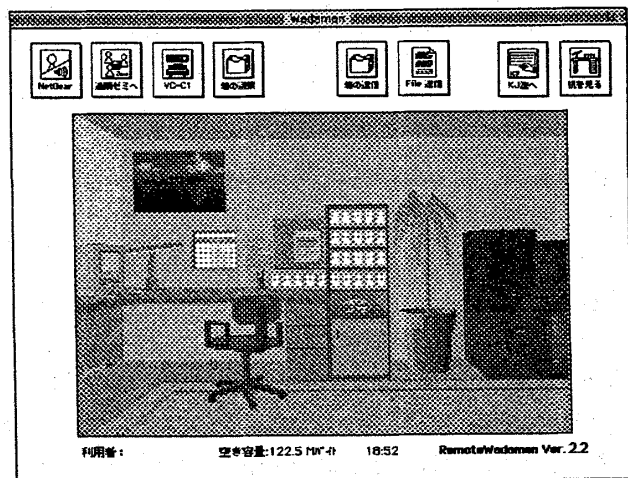


図1 Wadamanの初期画面

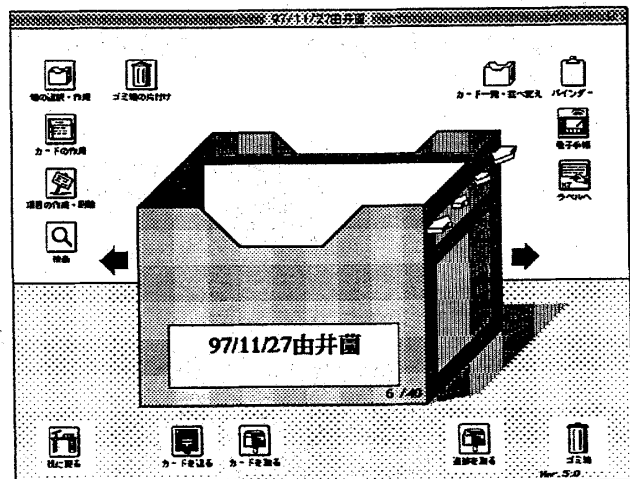


図2 仮想的なカードボックス

2.2 Wadamanベースのシステム

Wadamanをベースに開発したものに授業管理用システムである分散型マルチメディアプラットフォームDEMPO[6]、インターネット上の3箇所までゼミができる遠隔ゼミナール支援システムRemoteWadaman

An Intelligent Productive Work Card Support System: Wadaman

Jun MUNEMORI*, Masayoshi TERAGUCHI*, Takaya YUIZONO**, Masaru SUDO*

*Osaka University, **Kagoshima University

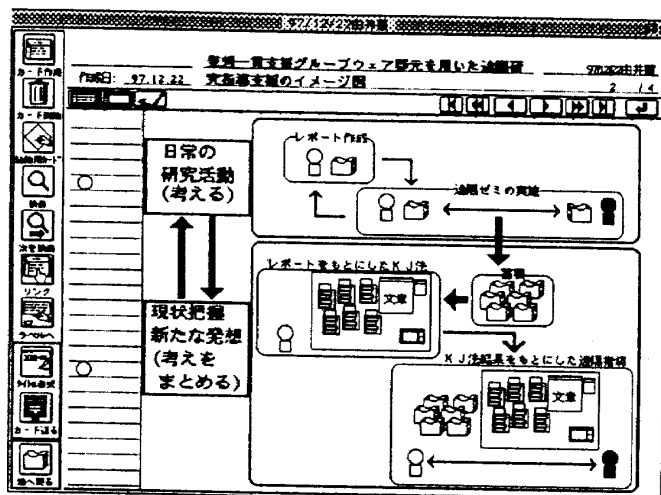


図3 仮想的なカード

[7], 40人クラスの授業ができる遠隔授業支援システム[8], 多人数用の知的生産支援システム SharedWadaman[9]がある。また異機種でのデータベース活用のためにも使用することができる[10]。

3. デモ概要

RemoteWadamanと鹿児島大学で開発されたNetGear[7]とを用いてインターネット経由で会場と鹿児島大学間で遠隔ゼミナールのデモ等を行う予定である。図4に3地点(東北大-大阪大-鹿児島大)で行った遠隔ゼミナールの実施例を示す。

4. おわりに

今後はWWW等、ネットワークとの関連を強めていく予定である。

参考文献

- [1]梅棹忠夫：知的生産の技術，岩波新書(1969)。
- [2]川喜田二郎：発想法—創造性開発のために，中公新書(1967)。
- [3]和田 満，宗森 純，長澤庸二：知的生産の技術カード支援システム-考古学データへの適用-，情報処理学会，人文科学とコンピュータ研究会，7-3(1990)。
- [4]宗森 純，和田 満，長澤庸二：“知的生産の技術カード支援システムの実現”，オフィス・オートメーション，13, 2, pp.162-167 (1992-05)。
- [5]宗森 純，堀切一郎，長澤庸二：“発想支援システム都元の分散協調型KJ法実験への適用と評価”，情報処理学会論文誌，35, 1, pp.143-153 (1994-01)。
- [6]宗森 純，吉野 孝，長澤庸二：“分散型マルチメディアプラットフォームDEMPOの開発とその知的協調作業への適用”，情報処理学会論文誌，34, 6, pp.1385-1394 (1993-06)。
- [7]宗森 純，吉田 孝，由井蘭隆也，首藤 勝：遠隔ゼミナール支援システムのインターネットを介した適用と評価，情報処理学会論文誌，39,2, (印刷中)。
- [8]井上 稔，由井蘭隆也，宗森 純，長澤庸二：“遠隔授業支援システムの授業への適用”，情報処理学会研究報告，GW25-8, pp.43-48(1997)。
- [9]寺口正義，宗森 純，首藤 勝：知的生産支援システムWadamanのグループウェア化：SharedWadaman，情報処理学会研究報告，GW26, 印刷中(1998)。
- [10]杉浦茂樹，倉本 到，宗森 純，白鳥則郎：“異機種間でデータベースの活用を行う分散発想支援環境の実現に関する考察”，情報処理学会研究報告，GW24-4, pp.19-24(1997)。



図4 Wadaman の応用例 (3箇所の遠隔ゼミ)